

2018 年度専門学校東京ビジネス外語カレッジ  
学校関係者評価実施報告書

評価対象期間 自：2017 年 4 月 1 日  
至：2018 年 3 月 31 日

2018 年 8 月  
学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価の概要と実施状況

### 1. 学校関係者評価の目的と基本方針

#### 1) 目的

専門学校東京ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価の目的を以下のように定める。

①自己点検自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価をおこない、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②企業・関係業界など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図る。

#### 2) 基本方針

専門学校東京ビジネス外語カレッジにおける学校関係者評価は、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本方針とする。

#### 3) 委員会運営

2018年度における学校関係者評価委員会を、以下のように年1回開催する。

2017年度（前年度）の運用実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告する。

2017年度から2018年度のコース別に重点的に取り組んでいる事項の発表及び、今後の目標・計画を発表する。

2018年度のシラバスを皆様にご説明した上で、業界・企業からの要望を承り、PDCAサイクルを元に今後の改善策を協議する。

### 2. 学校関係者評価委員名簿

学校関係者評価委員として以下、企業、関係業界に委嘱した。

氏名	所属	属性
中田 昌孝	株式会社ザイマックスインフォニスタ 代表取締役社長	企業・業界団体関係者 (GB)
中村 智由	一般財団法人日本病院管理教育協会 事務局次長	企業・業界団体関係者 (CM)
遠藤 乙彦	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所 代表取締役社長	企業・業界団体関係者 (GB)
野上マルドナド知代子	株式会社グローバルビジネス戦略総合研究所 客員研究員	企業・業界団体関係者 (GB)

鈴木 勝	日本観光ホスピタリティ教育学会 会長 大阪観光大学 名誉教授／(元・桜美林大学教授)	企業・業界団体関係者 (CR)
繁田 豊	日通旅行株式会社 団体営業部次長	企業・業界団体関係者 (CR)
高橋 恵介	ランゲージワン株式会社 営業部マネージャー	企業・業界団体関係者 (CM)
中岡 俊也	一般社団法人外国人雇用協議会	企業・業界団体関係者 (GB)
荻野 正昭	学校法人 ISI 学園常務理事	法人代表者
井上 由紀子	学校法人 ISI 学園評議員	法人代表者
並河 克彦	専門学校東京ビジネス外語カレッジ校長	法人代表者 (事務局)
伊藤 玲	専門学校東京ビジネス外語カレッジ教務副主任	法人代表者 (事務局)
青木 菜穂子	専門学校東京ビジネス外語カレッジ教務チーフ	法人代表者 (事務局)
梅田 拓	専門学校東京ビジネス外語カレッジコース担当	法人代表者 (事務局)
若林 繁実	専門学校東京ビジネス外語カレッジ事務局長	法人代表者 (事務局)

### 3. 学校関係者評価委員会の実施状況

#### 1) 学校関係者評価委員会実施日時・場所

日時：2018年8月17日(木) 10:00 から13:00

場所：専門学校東京ビジネス外語カレッジ 会議室

グローバルビジネスコース：402、英語キャリアコース：302、日中医療通訳コース：301

#### 2) 学校関係者評価委員会 進行状況

2018年度学校関係者評価委員会日程		
会議次第		
時間	項目	担当者
10:00	開会挨拶	荻野常務理事
10:10	委員紹介	事務局
10:15	議事：2017年度自己点検・自己評価実施報告	事務局
10:40	質疑応答	各委員
10:50	休憩	
11:00	分科会・カリキュラム編成委員会：キャリア等に関するコース別意見交換	コース担当
12:00	昼食・意見交流	事務局
13:00	閉会挨拶	並河校長

#### 4. 基準項目ごとの学校関係者評価及びご意見

##### 基準1：教育理念・目的・育成人材等

教育理念が明確に定められており、目的に従って教育がなされていると思う。 パンフレットやホームページを活用し、学校の理念・目的・育成人材の周知に努めている。
いわゆるディプロマポリシー（教育理念・目的・育成人材像等）は明確であり、大変優れている。教員・職員による共有、非常勤講師含めての共有が重要であるが、努力がなされている。今後、日本人学生増大に向けてのアピールが重要。
学校法人ISI学園の「教育理念・目的・教育人材像」はかなり以前から練られ、決定に至っており、学内及び学外に広く発表されているように思える。これらが外部的にも深く浸透されている具体的な証左は「日本人・外国人留学生含め23の国と地域から288名の学生がいる」ことではないだろうか。我が日本では極めて抜きんてた実態であると考ええる。

##### 基準2：学校運営

中期計画や戦略MAP等の策定、それに沿った運営を進めるとともに、情報システム化等により業務の効率化が図られている。
優れた理念を実現するための学校運営やカリキュラムの整備は決して容易ではないが、課題が認識され、改善の努力が行われている。人材の確保と育成が大きな課題。
日本人を中心とする専修学校でなく、圧倒的に外国人留学生が多い学校運営は極めて難しいことが推測されるが「事業計画設定」「組織・意思決定機能」「人事・賃金などの諸制度」など運営面で極めて円滑なることを伺い知ることができる。「日本人：外国人留学生＝1：1」「将来構想の専門職大学」などへの目標達成は、現在の円滑なる運営が基礎となるものと信じて疑わない。

##### 基準3：教育活動

優れた教育理念を実現させるためには優れたカリキュラムと優れた教員の確保が重要である。専門学校の特色（自由度）を活かした特色のある重点的な（総合的では無い）カリキュラム構築が必要である。課題は認識されており、そのための努力がなされている。
英語キャリアコース（英語ホスピタリティコース）のカリキュラムにも、グローバルビジネスコースのような経営に関する要素を含むカリキュラムの導入をご検討いただけないものか。もしくは今後世の中全体で働き手としての外国人が増える傾向にある中で、翻訳・通訳を通じて、広く一般企業においてマネジメント業務に従事することになる「仮称）産業人材」の「在留資格審査」に関して、業界をあげて、行政（入管を管轄する法務省や国策として、在留資格の拡大・緩和を主導する立場の内閣府？）に対して、働きかけをしていただきたい。
進路先の1つである「ホテル・観光業界への就職」をより多く目指す方針を打ち出し、カリキュラム変更が実施された。「伸び行くインバウンド観光潮流」に合致した大英断であると評価する者である。カリキュラムの体系的編成は、ホスピタリティ要素を加味し専門力をかなり増してはいますが「業界ニーズ」や「将来的な専門職大学」のために、より実践的な科目を増やすのはいかがか。（例：「サ

ステナブルツーリズム⇒観光マーケティング」や「通訳⇒MICE（国際会議と通訳）」など）。また、英語キャリアコースと日中医療通訳コースの更なる専門特化を図り「メディカルツーリズム」分野のブランディングの確立を図るのはいかがだろうか。

#### 基準4：教育成果

外部試験、資格取得などを推進し、客観的な評価を担保するとともに学校のキャリアセンターによる就職指導・支援により具体的な就職実績につなげる努力がなされている。自己評価コメントにもあるとおり、卒業生のその後の活躍を追跡し、学校の生家・魅力の一つとして活用することで、更なる成果が期待できると思われる。

就職内定率が高いことは評価できる。専門学校としては各種の資格試験合格や、英語外部試験（TOEICなど）の点数を高めるのが望ましい。

教育成果として最も注目されるものの1つとして「就職率」があるが、それが順調に高いレベルで推移している努力に敬意を表す。他方、目標達成に苦勞されている「卒業生・在校生の社会的活躍」や「資格取得」に対して提言したい。日本におけるインバウンド観光の活性化で政府・地方自治体を含めて日本各地での「観光企画コンテスト」が実施されている。特に外国人留学生が多いことから“外国人の視点”からの提案が出来る。入賞の際には全国的に認知度が高まることは必定。

#### 基準5：学生支援

キャリアコンサルタント資格を有するスタッフのコンサルティングは良くできている。特に外国人留学生に対しては個別の生活相談指導、メンタル面でのサポート強化が望ましい。クラブ活動も可能な範囲で充実させることが望ましい。既に着手されているとのことだが、同窓会組織を整備することによって更に学生支援体制が充実すると思われる。

スクールカウンセラーを配置し、学生の個別の悩みや相談に対応する環境を整えてはいかか。就職については校内キャリアセンターを設置し、計画的に指導が行われている。

多国籍な学生を受け入れている中で、一般的な専門学校以上に学生支援における課題が存在することは間違いない。その状況において、これまでの経験と知識を活かした学生支援が行われていることが伺える。学生寮の完備なども、都心の学校として外国人留学生・日本人学生ともに修学における大きな支援となっている。

#### 基準6：教育環境

すべての教室に電子黒板を導入、WIFIを完備するなど、教育環境の整備に力を入れている様子が伺える。また、海外教育機関との提携など学生が希望する際に海外派遣を行える環境も整備。更に精力的に海外との交流を推進しており、教育理念に沿ったグローバルに活躍できる人材を育成する環境が整っている。

施設・設備投資がなされている。

一定の防災対策と地域連携が整備されている。

施設・設備の完備にずいぶん努力されておられる様子が伺える。同様に「学外実習」「インターンシップ」「海外研修」においても準備も十分で、教育効果も確信されておられるとの報告ですが、課題は「これらの実習や研修の受講者が少ない」とのこと。他の専門学校や大学も類似の内容である。“より多くの受講者を増やすために”変化ある実践的な研修・実習の内容「変形・デュアルシステム」、「研修・実習の奨学金付与制度」の導入などを検討できないか。これらは募集段階から強くアピールすることとする。

#### 基準7：学生の募集と受入れ

学生募集・入学審査において、厳格かつ慎重に対応している状況が伺える。自己評価コメントにある通り、卒業生の活躍を広報材料として活用することで、更に学校の魅力を発信できることと思われる。

学生の募集と受入れに関して、適正に実施されている様子が詳細に報告された。今後とも入念な募集と受入れを期待したい。日本人が多い専修学校や大学と異なり、「預金残高証明書」や「在職証明」などが必要とされる世界各国からの外国人留学生の募集と受入れには極めて注意が必要な環境であり、ご苦労は大変なことだと推測される。

募集活動は強力かつ適正に行われている。今後、日本人学生の増加が望まれる。

#### 基準8：財務

中長期的な視野に立った学校運営がなされ、また、財務情報をホームページで公開するなど情報公開体制もしっかり整えている。

入学定員100%を超える学生を迎え入れ、学校の財務基盤は安定している。今後も学生数の確保を図り、収益・財務基盤の中長期的な安定性を確保してもらいたいと思う。

「財務全般」に関して、適切に行われている様子が詳細に報告されている。今後とも適切な実施と発表を期待している。

#### 基準9：法令等の遵守

コンプライアンスについては強く意識されており、努力がなされている。外国人留学生を含めて更に徹底することが望ましい。

様々な国から学生を受け入れている中で、一般の日本の学校以上に法令遵守の考え方が運営側・教職員に浸透しており、日々努力を重ねてきている様子が伺える。

「法令・設置基準等の遵守と適正な運営」「個人情報保護対策」「自己点検・自己評価の実施と問題点の改善」「自己点検・自己評価結果の公開」に関して、詳細に報告されている。適切に行われていることが理解できる。

#### 基準10：社会貢献

人材育成を通じての社会貢献の志向性は強いと認められる。豊島区、特に池袋地域はグローバル化が急速に進んでいることもあり、地域レベルでの社会貢献も更に拡大することが望まれる。

社会や地域との連携を積極的に進めている。学生のボランティアの推進や状況把握、更には卒業後どのような形で社会貢献できているかを追跡・公表することで、更に学校の社会貢献への評価が高まることと思われる。

地域や関係官公庁とのボランティア活動にあたって積極的に参加されており、今後も継続的に実施していただきたいと考える。

#### 5. 分科会・カリキュラム編成委員会

グローバルビジネスコース、英語キャリアコース、日中医療通訳コースの3コースに分かれ、各コースの企業、業界関係者から意見をいただく。

2017年度-2018年度のカリキュラムシラバス、時間割、テキスト説明、コース別キャリア志向、取得資格、就職実績を説明し、各企業からの要望を伺う。それらを元に2019年度のカリキュラム改訂の検討材料とする。

#### 6. まとめ

今年度の学校関係者評価委員会は、全体会として2017年度自己点検・自己評価の説明とフィードバック、分科会として各コースに分かれ教育課程編成委員会を実施。コースごとに業界関係者や企業担当者が意見交換会を実施したため、企業ニーズと学校カリキュラムのマッチングを図るうえで非常に有意義な会議となった。

私ども専門学校東京ビジネス外語カレッジは、学校関係者評価委員会から頂戴した評価、ご意見を真摯に受け止め、今後のカリキュラム展開や学校運営に活かしていく所存である。

また、更に学校が成長・発展を遂げるため、尚一層の努力を重ね、地域・社会貢献のために企業ニーズに直結したグローバル人材を育成・輩出していく。

以上

2018年8月17日

2018年学校評価委員会事務局